

| 番号    | 3-2-3   | 表題                      | 新たな材料による下水道管の粗度係数を計測 |                      |
|-------|---|-------------------------|----------------------|----------------------|
| 内 容   | <p>下水道管は、「陶管」「ヒューム管」「塩化ビニール管」と時代の要請に基づき変遷する中で、それぞれの下水道管が持つ優れた品質や性能は、その時代ごとに高く評価されてきた。反面、昨今では更なる高耐久性や地球環境保全などへの対応など新たな課題も確認されている。</p> <p>本研究では、品質・性能や各々の製品の長所の融合や短所の改善を図り、産業副産物や粒度調整灰（以下「SA」という。）の有効活用と脱セメントによる温室効果ガス削減を図りつつ、高耐久性を有し、環境保全に有効な新しい材料によるヒューム管の研究を行った。</p> <p>具体的には、セメントを使用せず、フライアッシュと高炉スラグ微粉末を中心とした産業副産物主体の結合材（Industrial By-Product Materials 以降 IBPM）を開発し、このIBPM をセメント代替として用いたコンクリートでヒューム管を製造して、水理実験装置を設けて当該管路の粗度係数を計測した。</p> |                         |                      |                      |
| キーワード | 新しい材料 高耐久性 粒度調整灰 脱セメント 温室効果ガス削減   |                         |                      |                      |
| 処理区名  |   |                         | 位置区分                 | 管きょ                  |
| 職種区分  | 土木  |                         | 施策区分                 | 腐食対策 防食対策、温室効果ガス削減対策 |
| 状態区分  | 調査 研究   |                         | 新規性                  | 新規知見あり               |
| 実施年度  | 平成 27 年度～令和 4 年度  |                         | 全体期間                 |                      |
| 担当部署  | 東京都下水道サービス株式会社 技術部 技術開発課  |                         |                      |                      |
| 発 表   | 局内  |                         |                      |                      |
| 履 歴   | 局外  | 令和 4 年 第 5 9 回 下水道研究発表会 |                      |                      |
| 調査方法  | 調査委託  |                         |                      |                      |
| 関連情報  |   |                         |                      |                      |